

## 第2回岩手県中小企業家同友会景況調査（2005年7～9月期）

この景況調査は、岩手県中小企業家同友会（会員数235社）が2005年10月25日から11月15日に会員に対して行った結果をまとめたものです。（有効回答数86社、36.6%）

売上高の現状、見通しについては七割強が横ばい、減少と答えており、依然として“踊り場”脱出の様相は見えない状況が続いています。中でも採算（経常利益）については、4～6月期と比較して77%が横ばい、もしくは減少と回答。同様に昨年同時期対比では74%もの回答が減少と答えており、前回調査時よりも13%増加しています。10～12月期の見通しでこそ増加への期待はあるものの、依然として減少傾向が続いています。

採算水準では、前回調査で七割弱の回答が黒字及び収支トントンでしたが、今回は63%ほどに減少、また今後の見通しでも19%が赤字もしくはやや赤字と回答、自社の経営努力だけでは今後の見通しが立たない厳しい状況を現わしています。

自社の業況判断でも悪化したとの回答が、前回調査時の26%に比較し49%と激増、更に業界の業況判断では好転が6%足らず（前回調査時好転18%）と下げ止まらない状況です。

経営上の問題点では、前回高い値の回答があった「販売先からの値下げ要請」が急減、「同業者間の価格競争の激化」が突出しており、これまでは取引先との関係を保つことに重点を置いていた企業も、自社生き残りのための徹底したコスト削減に転じています。

全国的な景気の上向き感に対し、岩手の景況はむしろまだまだ下げ止まらない状況が回答から伺え、以前にも増して厳しくも正確な現状認識が必要とされています。

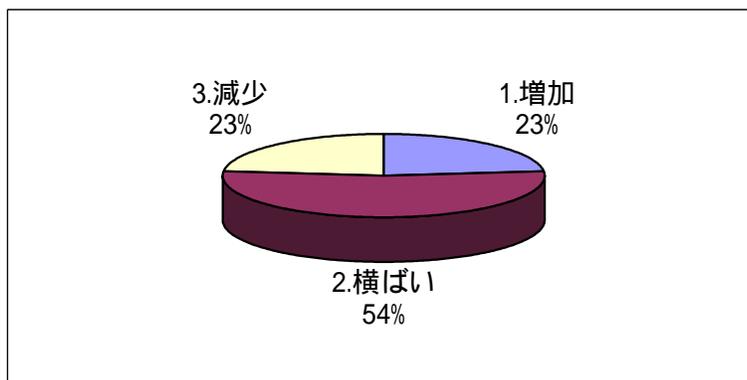
しかし、こんな厳しい環境の中でも今後の経営上の力点で、必ず社員教育が回答で上位に上がっており、学び続け確かな理念で継続して人育てに努力することで、新たな活路を見いだすことができると確信する経営者の姿勢が見て取れます。

同友会での経営者同士の真摯な学び合いこそ、停滞する情勢を突破する原動力になるはずで、例会をはじめ様々な関わり合いに積極的に参加し強靱な会社づくりへ向かって互いに磨き合ひましょう。

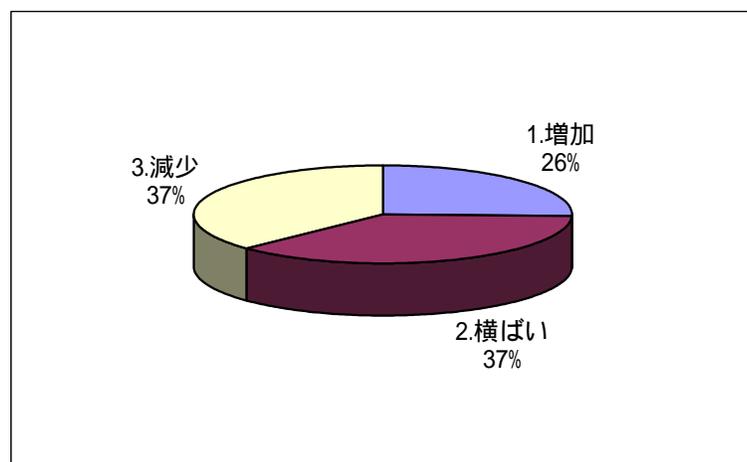
【1】貴社の7～9月の売上高と採算（経常利益）は

【売上高】

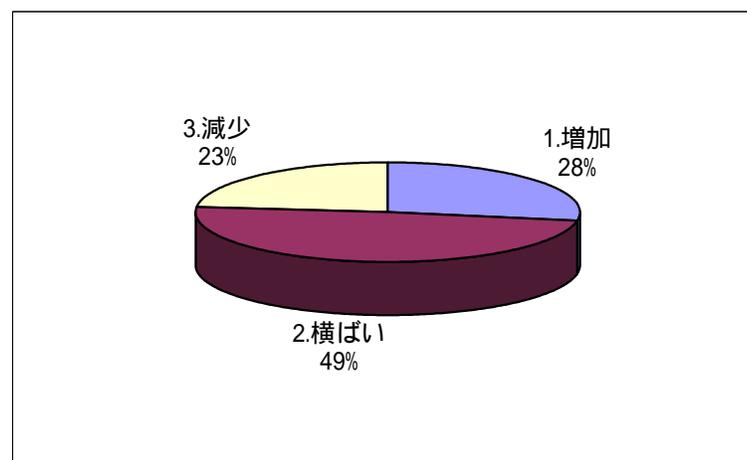
2005年度4～6月と比べて



2004年度7～9月と比べて

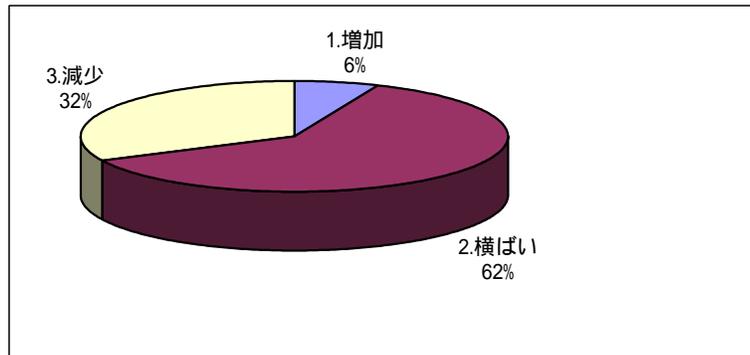


2005年度10～12月見通し

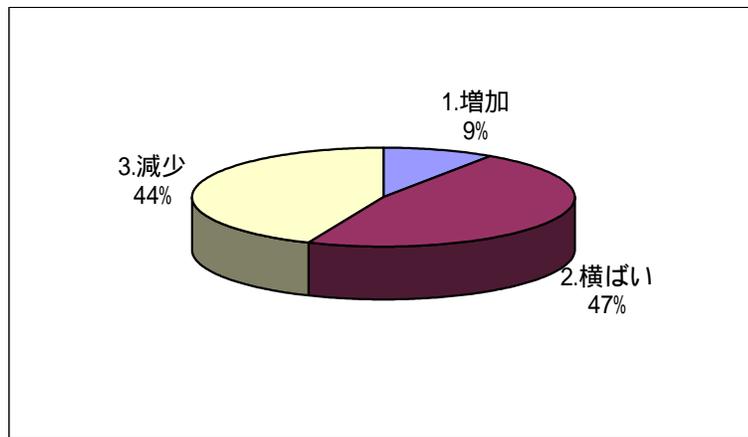


【採算（経常利益）】

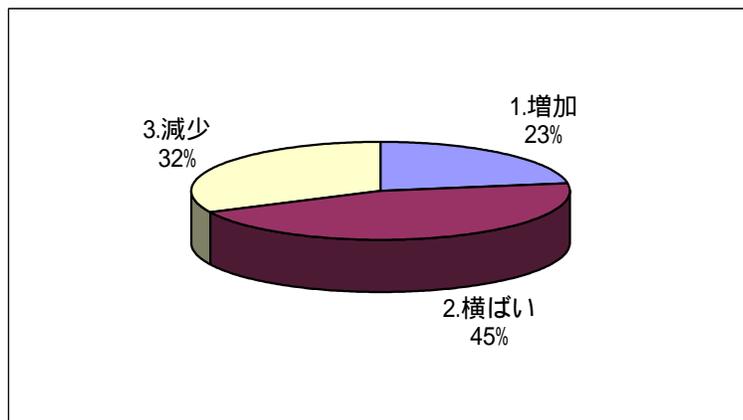
2005年度4～6月と比べて



2004年度7～9月と比べて

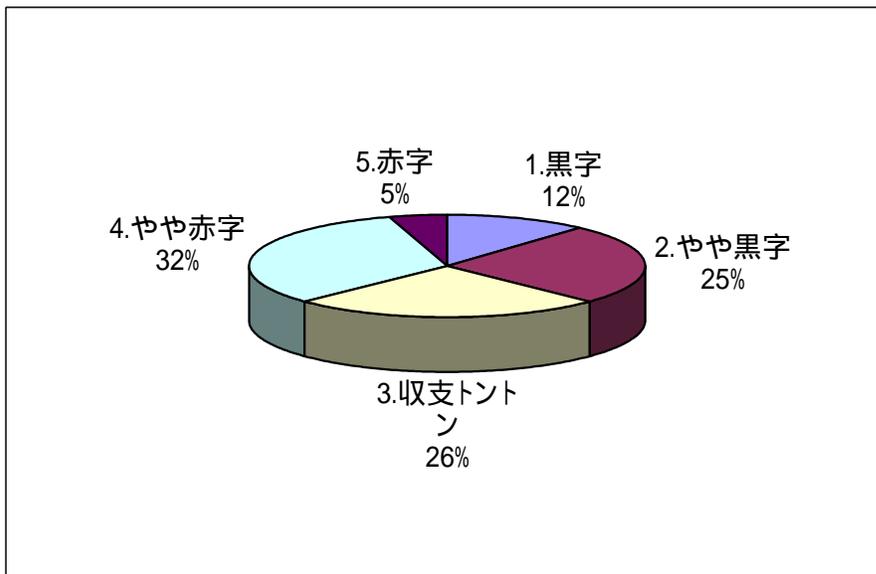


2005年度10～12月見通し

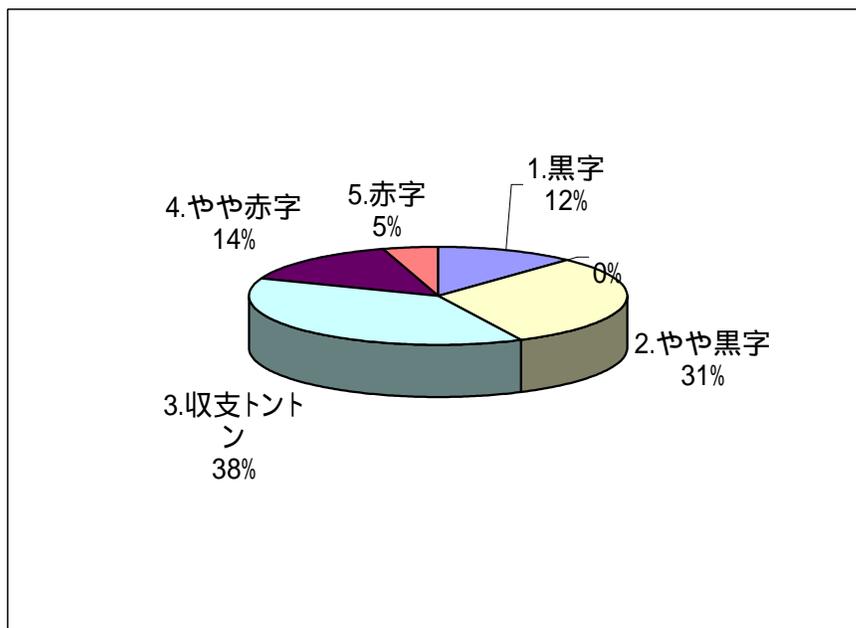


【2】貴社の採算（経常利益）の水準は

2005年度7～9月



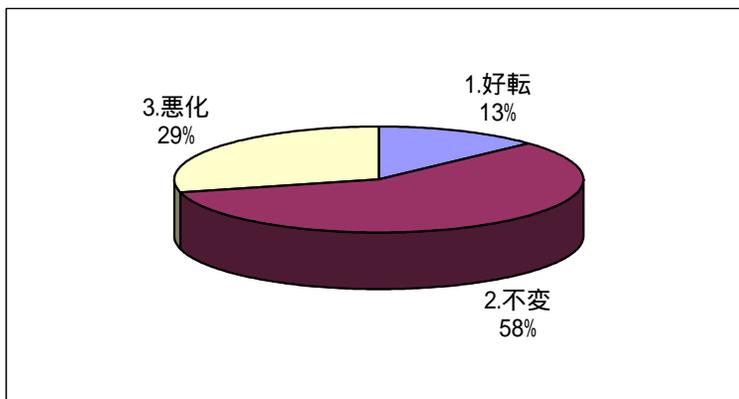
2005年度10～12月の見通し



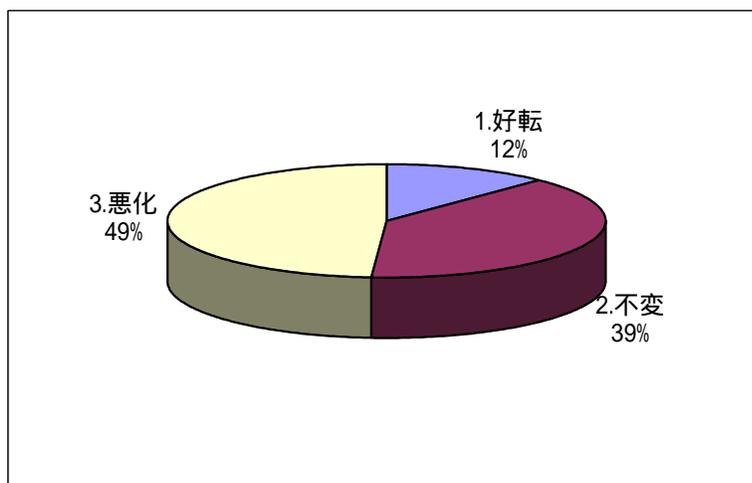
【3】7～9月の業況判断（好転・悪化の状況）

（1）貴社の経営状況全般について

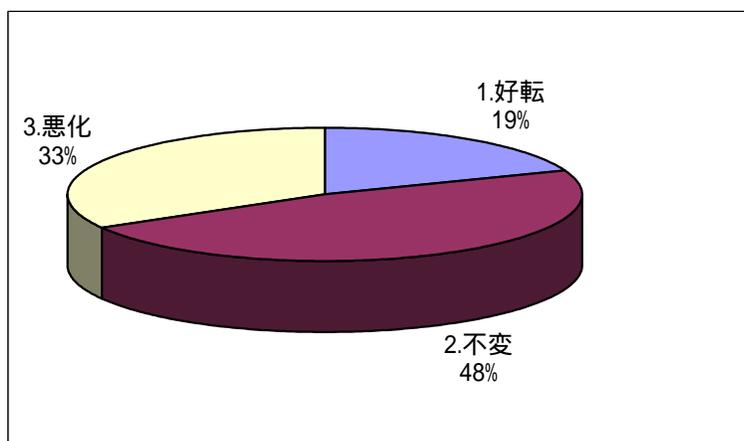
2005年度4～6月と比べて



2004年度7～9月と比べて



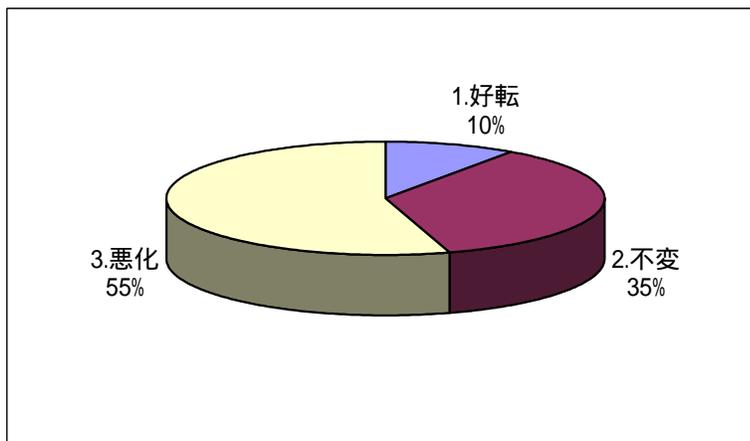
2005年度10～12月見通し



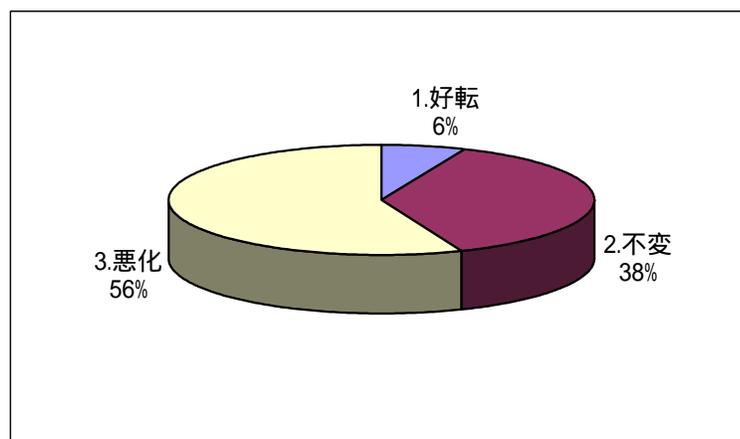
7～9月の業況判断（好転・悪化の状況）

（2）貴社がおかれる業界の状況

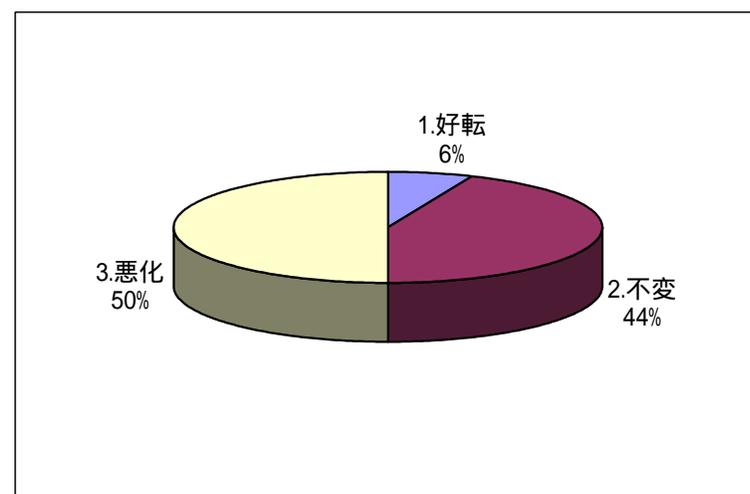
2005年度4～6月と比べて



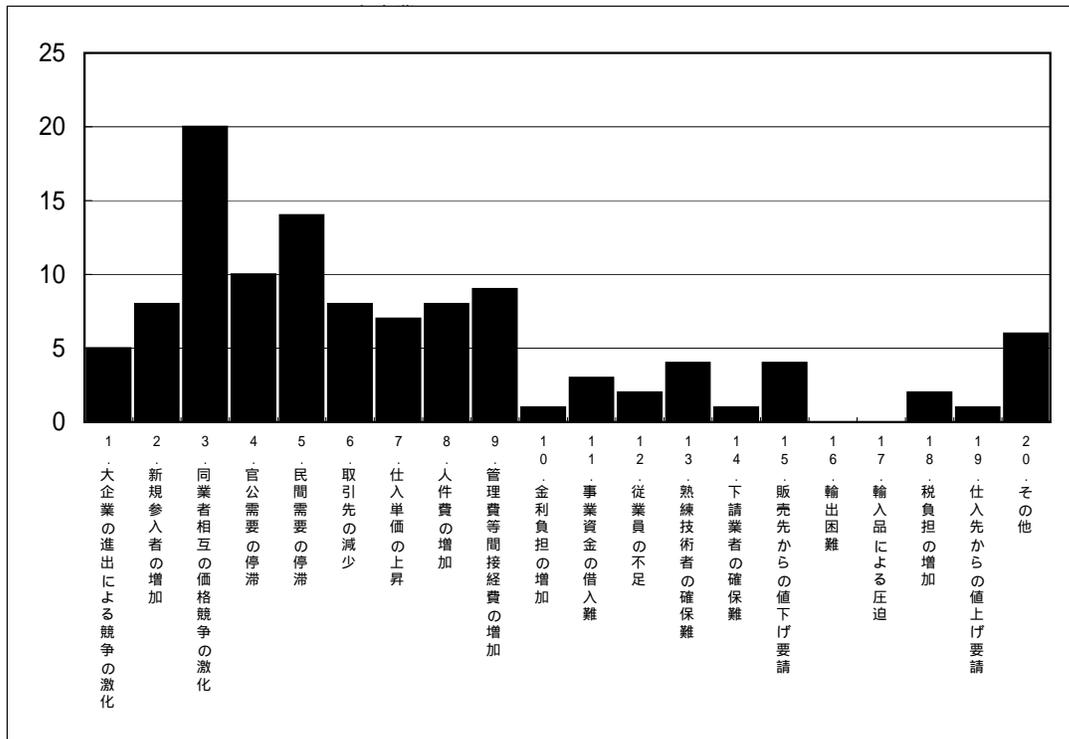
2004年度7～9月と比べて



2005年度10～12月見通し



【4】 貴社の7～9月の経営上の問題点は（上位3つまで選択）



【4】 貴社の7～9月の経営上の力点は（上位3つまで選択）

